へ13
3877
8

種員
作豊
画國
上

へ13
8877
8

兒雷也

豪傑譚 十五編

種員作　嘉永四亥新板

豊國画

ひてせ愚吟の俳風狂句ハ「月夜ごとてらさるゝと不破の関」彼関屋ゑ板廂も月洩宵の風流ハひきく時雨の夜ハ枕ハ近江霜の音ハ寐兼やあらん已も好る戯作と以て世活として風雅ゆゑ毎度作意ハ〻〻節ゝ恰雨夜の不破関寐られぬゝゑ案ハ困む此書兒雷也ハ殊更ハ先達趣向ハ妙を尽くして数編の後僕手ハつゝれば別て新奇の工夫もあらぜ無據前編より此巻ハ説續る寐めぐりの一段ハ柳亭翁ゞ二面鏡文政三年刊行と飛案どもいふせん其名工と拙作の違ハ尻神鏡と海水精鏡水銀ハ駁蓋ハ離人情世態争うつらん欠くさだらけの文談ハ関屋ゞ軒の十古廂月の夕も雨の夜も照降すゝハ出情て後ハ聊ゝとも有宮の顧ゝまハこゝとをやと氣根を限りハ漸練上不破ゆハ間も遠くらゐ車返の櫻木ハ彫つ

嘉永庚戌初春造編

同　辛亥孟陬發兒

柳下亭種員識

沉牡丹の香爐
兒雷也
相州江之嶋の漁夫
泣面ケ崎の陀々八
鎌倉管領の昵近
畑守大膳
蝦蟆石
横嶋墨平太
直道

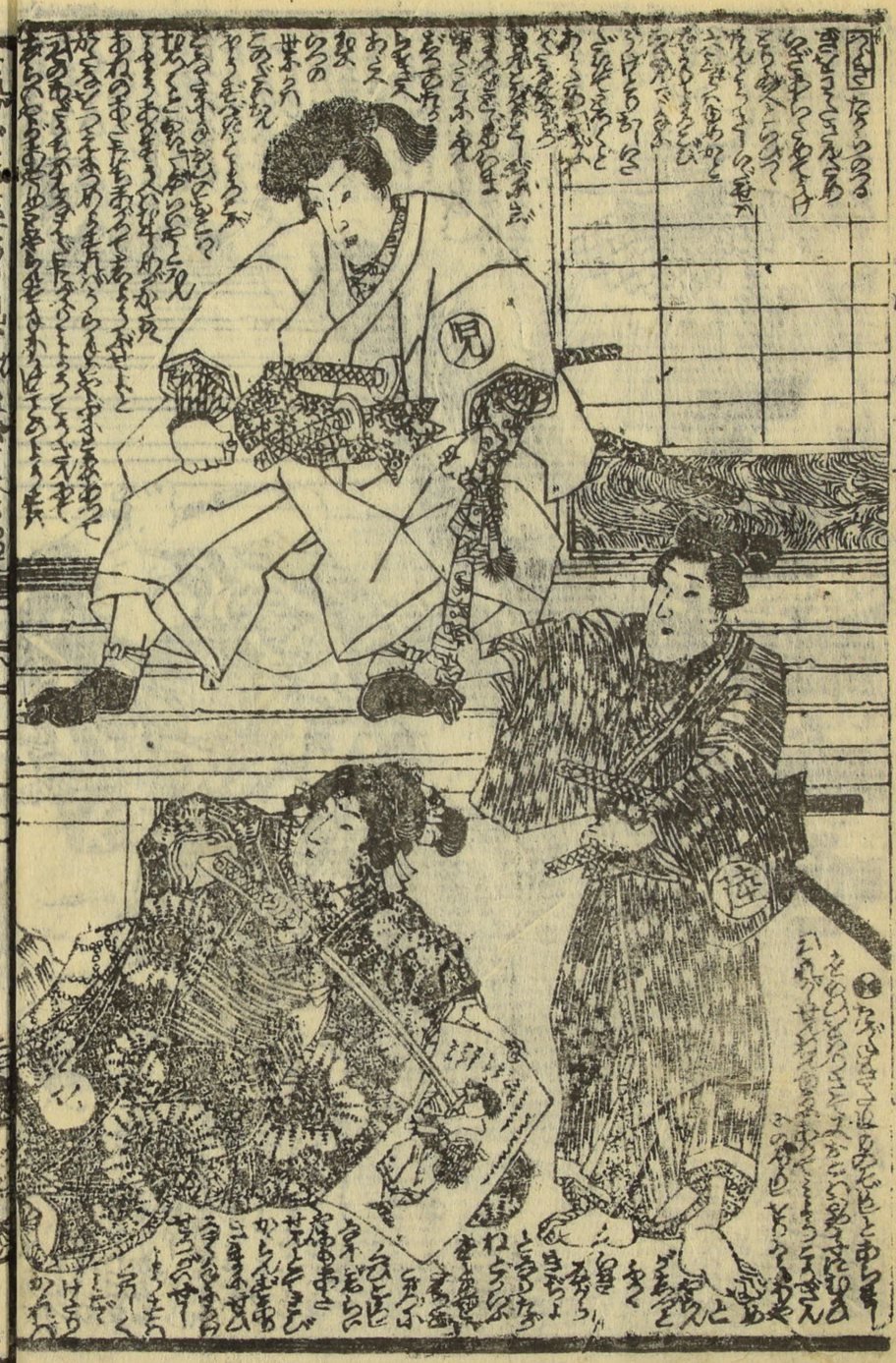
夢蝶兵衛の妻於六
濱萩
小園
陸三郎
高砂勇見之助の女照田

刀屋の聟
半七

鎌倉雪の下
刀屋の女
於花

小
強

強
児



兒雷也豪傑譚

廿四編 柳下亭種員作
廿五編
廿六編 一雄齋國輝画

小女郎蜘蛛麻環 三編讀切 馬琴作 國芳画

新編金瓶梅 十編揃 馬琴作 豊國画

小倉百人一首 極ざのきもり 小布施屋

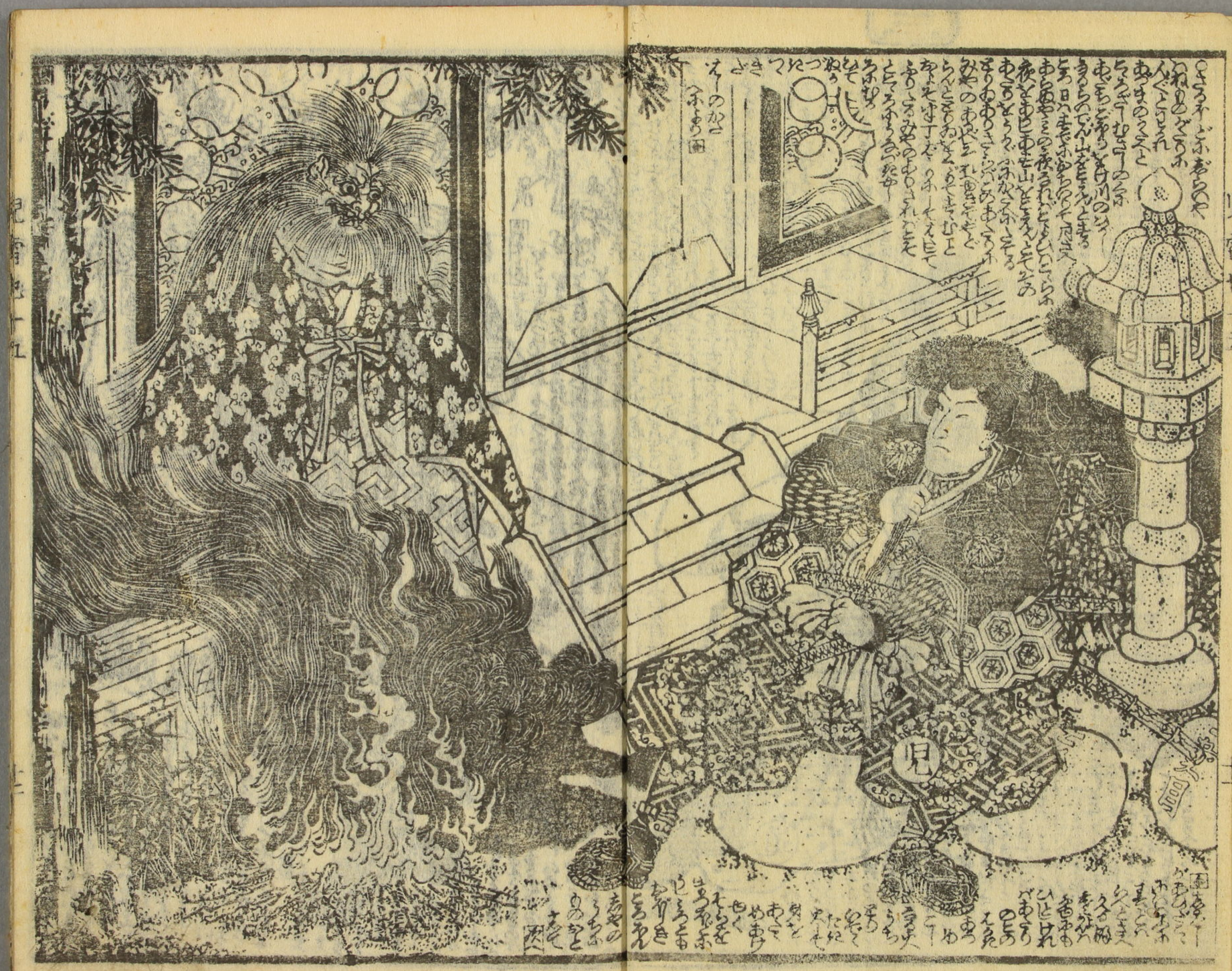
一雄齋國輝画
兒雷也豪傑譚
右双紙の儀は近頃の出来
物にて世間の人口に
膾炙せし事なれば
芝神明前
甘泉堂版

種員作 豊國画

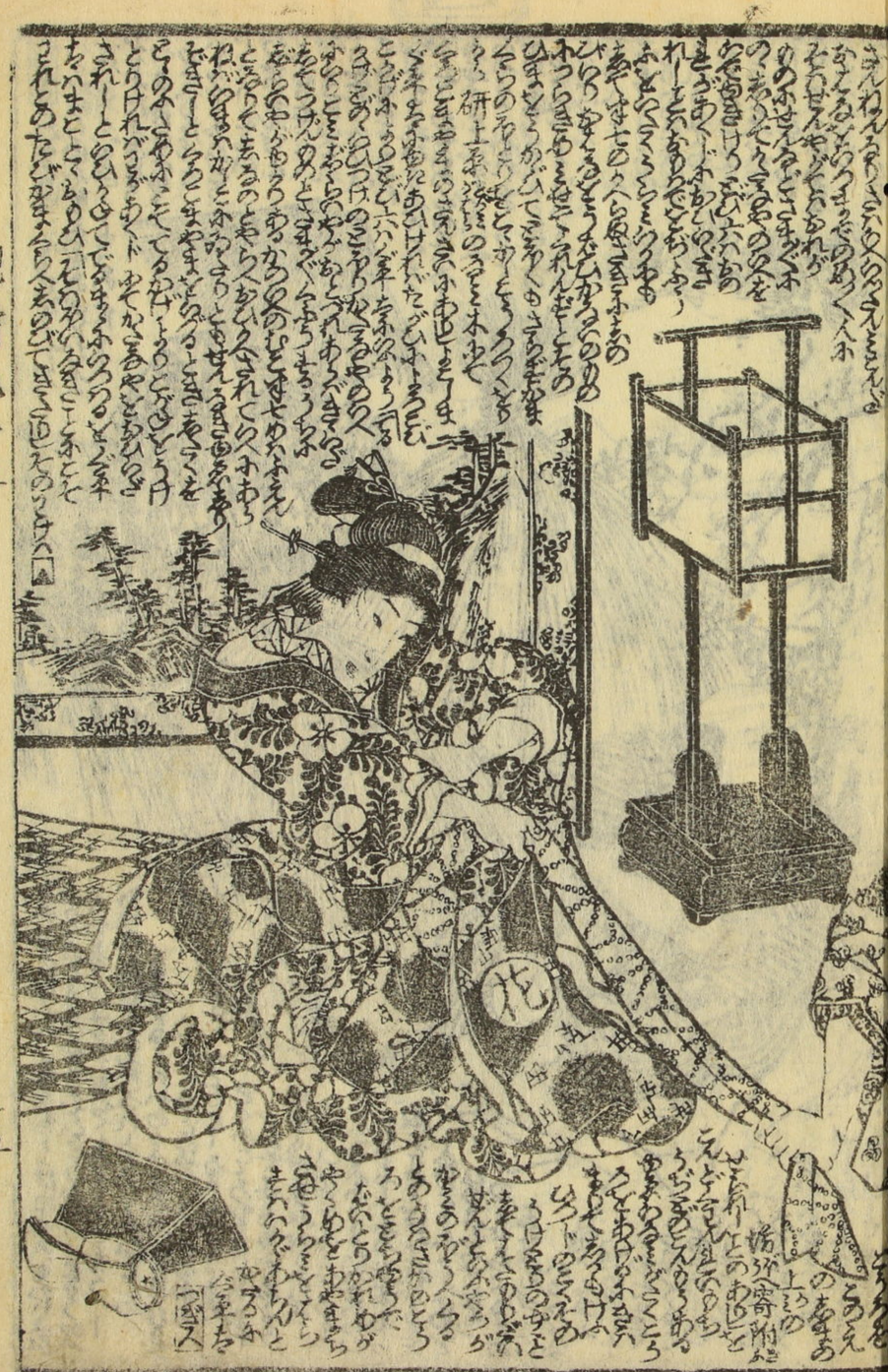
兒雷也豪傑譚
十五編
下

三
岩倉道全
道

十五篇
廿余生様
種貞画
豊國画



児



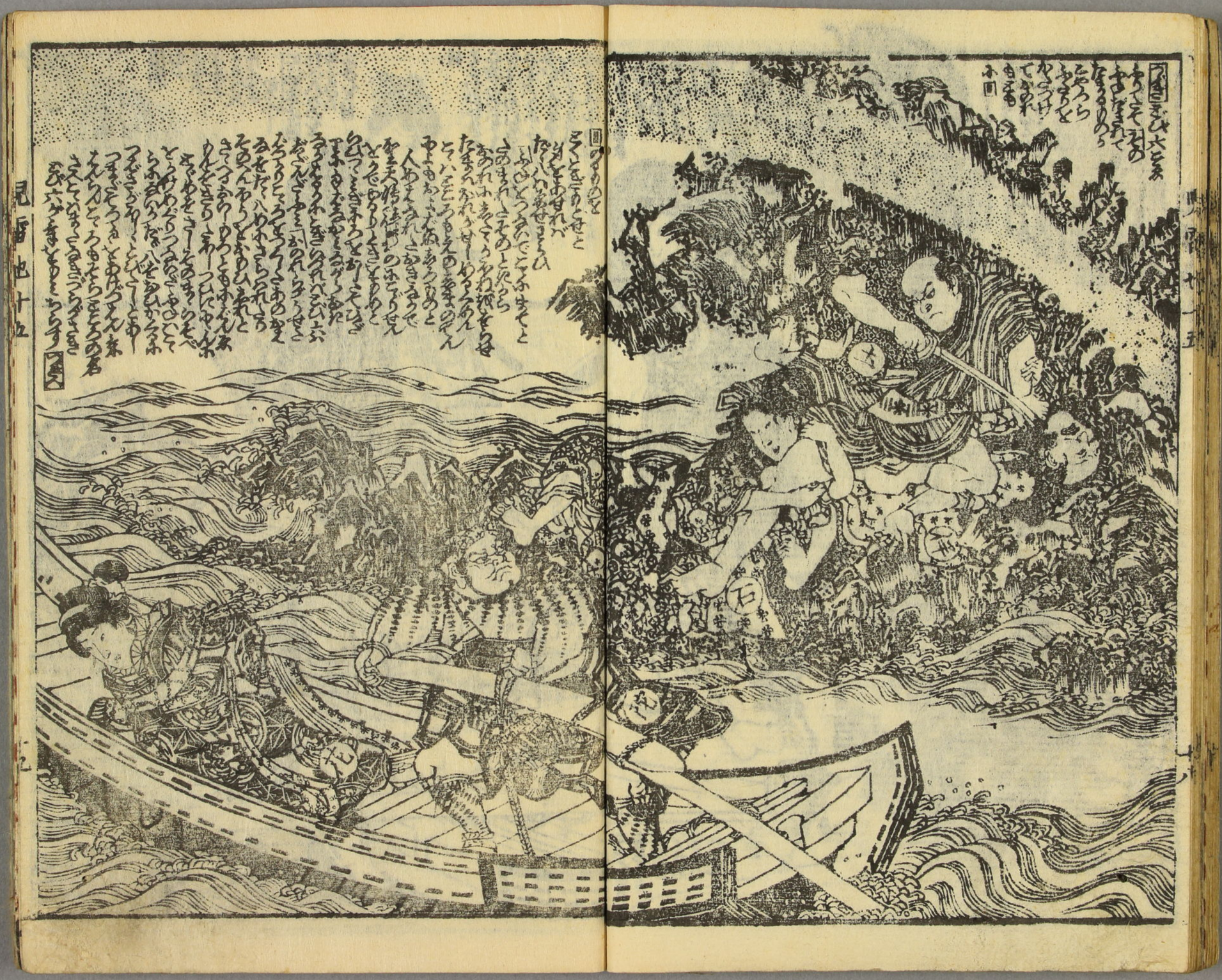
児
十
愚

蝦蟆石

江の島の御手洗

無熱池

蝦蟆石


見返也十五

風俗通鑑　初編二冊　春風亭柳枝作　國貞画

小栗十騎　金沢八景　照天松操月鹿毛　後編　春風亭柳枝作　二編　一雄齋國輝畫

黄金水大盡盃　爲永春水作　初編　二編　三編　壽齋國貞画

地本草紙問屋　芝神明前　甘泉堂和泉屋市兵衛板

假名反古　一休草紙　五編六編七編出板　柳下亭種員作　一雄齋國輝画

禁方　玉之亜生肌膏　一貝　三十六丸
金瘡　速愈奇功丹　一枚　代四丸

制製所　新吉原　玉楼
讀弘所　眞土山東石橋下　柳下亭

種員作　豊國画

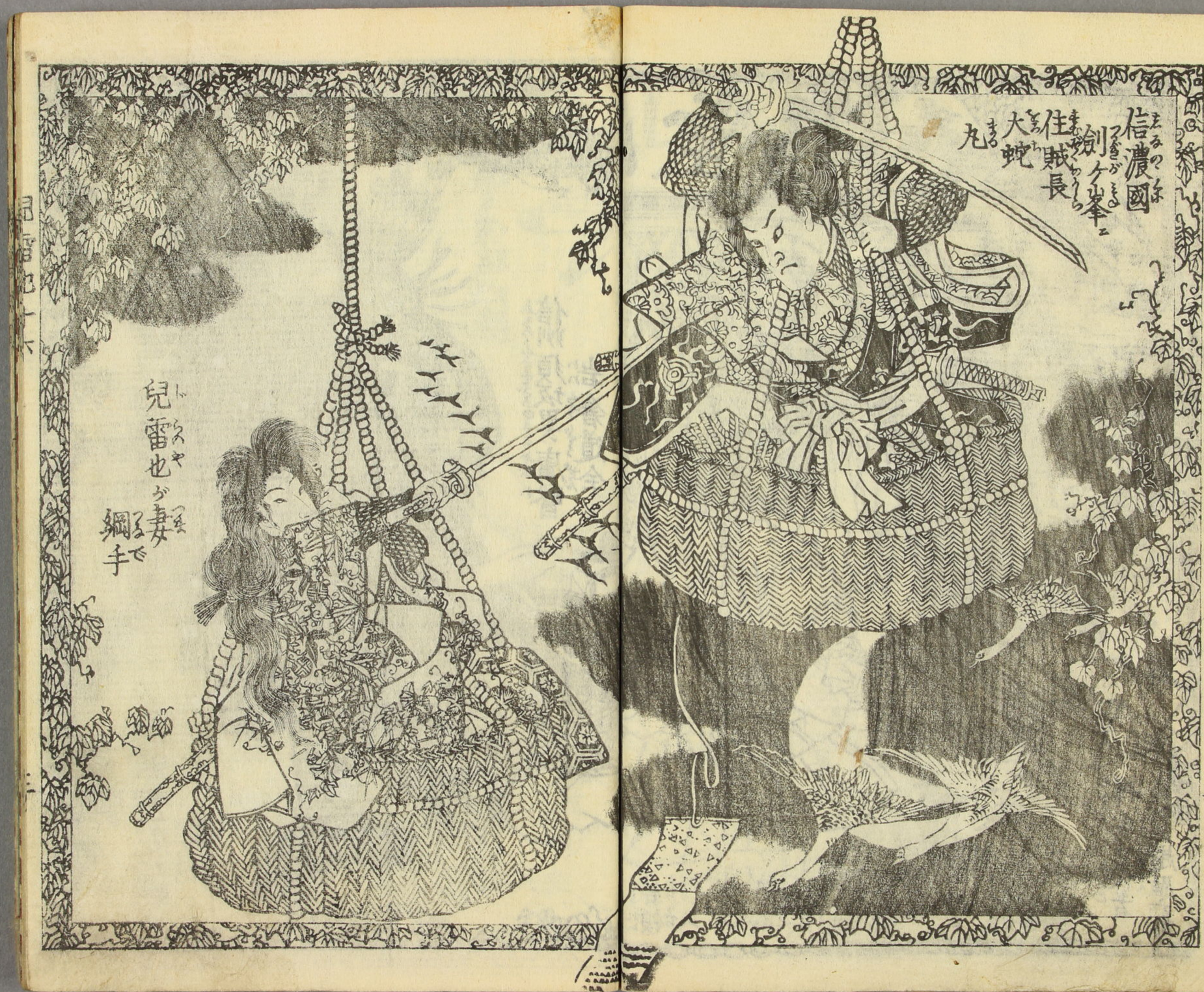
兵雷也豪傑譚
篇

毛寶ハ亀ヲ放ち長房ハ鶴ヲ
無ク商山の四皓ハ龍の頭上ヲ乗巻中ヲ出る兒雷也ハ虹ヲ乗ント数
度ありされば僕も公年の春足下にあらぬ作継えでと發客の
巧言ヲ乗此嗣編と兼諾て三編ハ既ヲ著述せ〜ゞ今年ハ夏の
初候より所労ありて厭然ヲ過せバ月日の白駒疾暮て風の音ヲ
ぞ知ぬるると詠し秋さへ半越ぬくヲ書房の催促最敏く
て寛々急ヲ毛錐と採恩卒ヲ紹果たる菓子も毛寶長房ガ跨
とする鶴亀の齢ヲ比ぶ千代萬代不易春の御伽草今童達の
手翫となるを而已

嘉永庚戌八月成稿
同　辛亥正月發兌

柳下亭種員識

開山堂
沈壮丹香炉
鎌倉管領の管領の晄近畑守大膳
持氏
管領
朝臣の執権
上杉氏
憲入道禅秀
相摸國大懸郷に住する人
世人大懸入道と号
禅秀従者
田越雁六郎
兒雷也


信濃國
剣ケ峯ニ
住賊長
大蛇
丸
兒雷也ガ妻
綱手

信州須坂里の庸醫
岩倉道全

高砂勇見之助
義任

尾形ゞ家系の一巻

半七が婦妻
於花

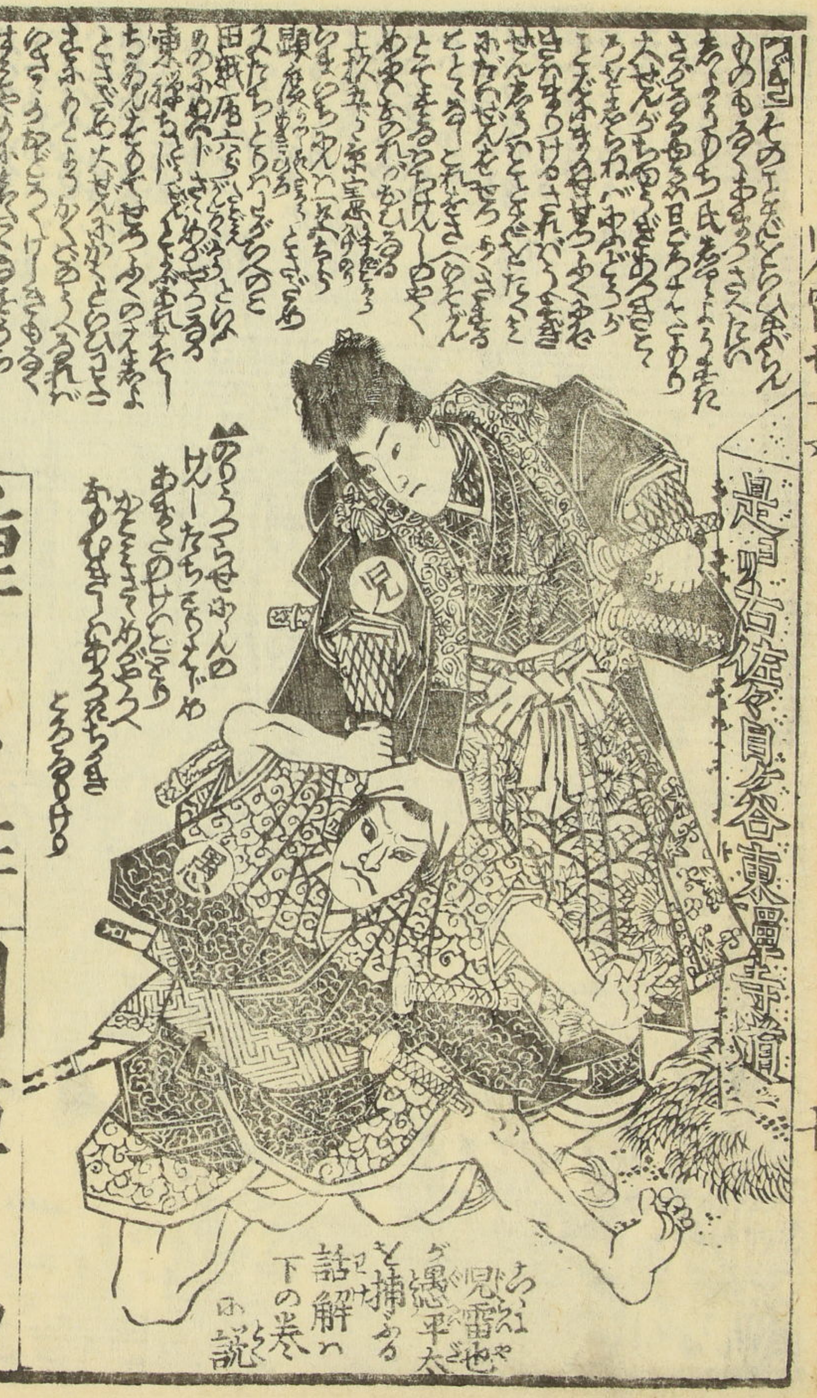
刀屋の聟
半七

畑中大膳
大悪人道ゑ
諫言

上杉五郎
景憲
一色太郎
顕廣

管領
足利
左馬頭
持氏朝臣

五
田越雁八
目々谷の
佐々
切腹
畑守人
東
禅寺
大膳
種秀
智



種員作 國輝画

嘉永六年癸丑孟春新雕

假名反古 一休草紙

柳下亭種員作
一雄齋國輝画

初編 一休の親母は孝貞ふかきひとりの師僧結縁かたきの人なれども和尚の親帝の落胤なれば俗人の子なるべし乃ち出世の前一生涯の行状の事ども五十三次の河州堺田ふ宗純禁史の流芳ふかきを称して一休と号す

二編 ふ

三編 ふ

四編 ふ

五編 ふ

三編より五編を二冊に仕立て出板仕り

板元敬白

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

種員作
國輝画

嘉永四年辛亥 孟春新鐫

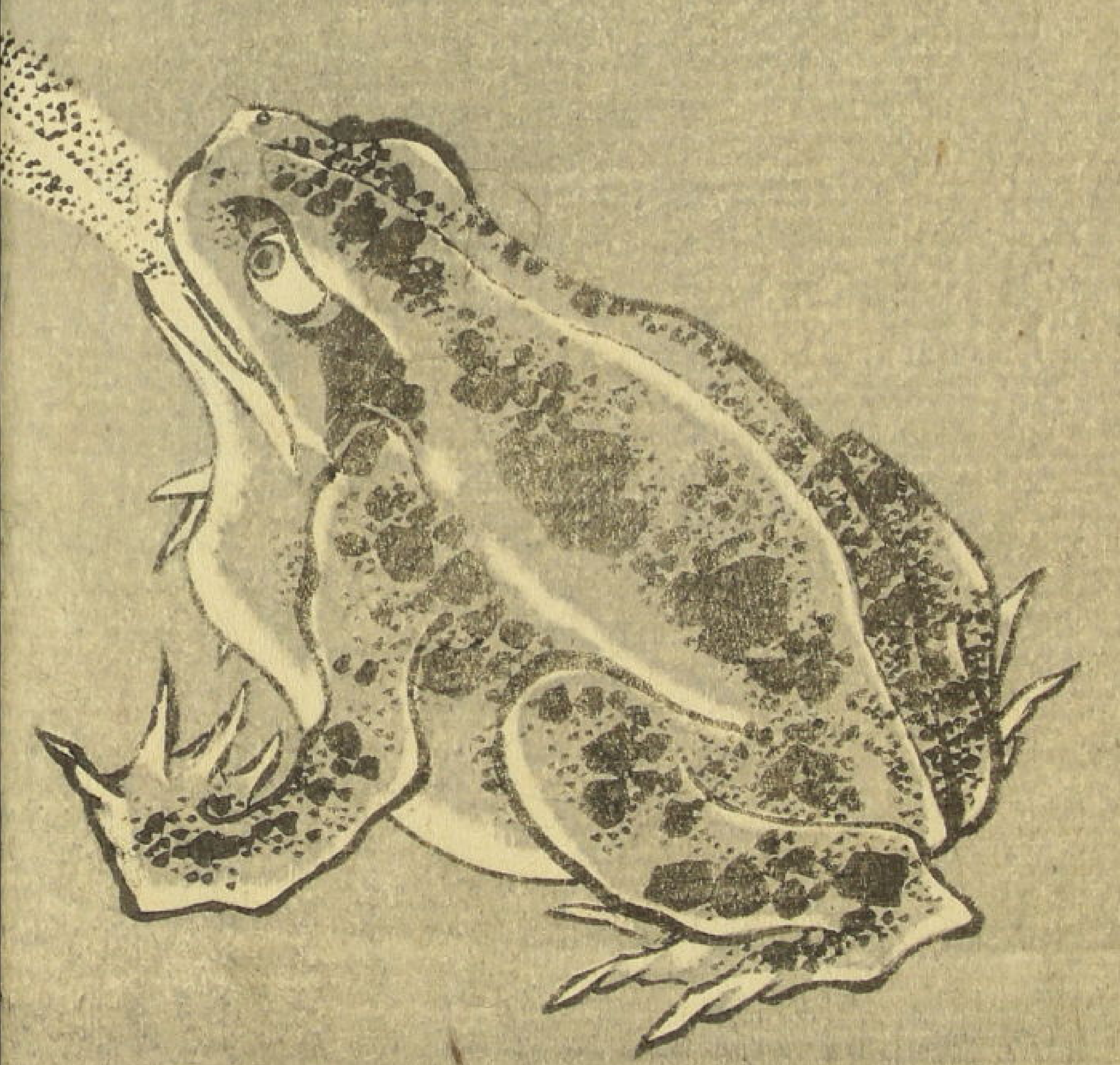
児雷也豪傑譚

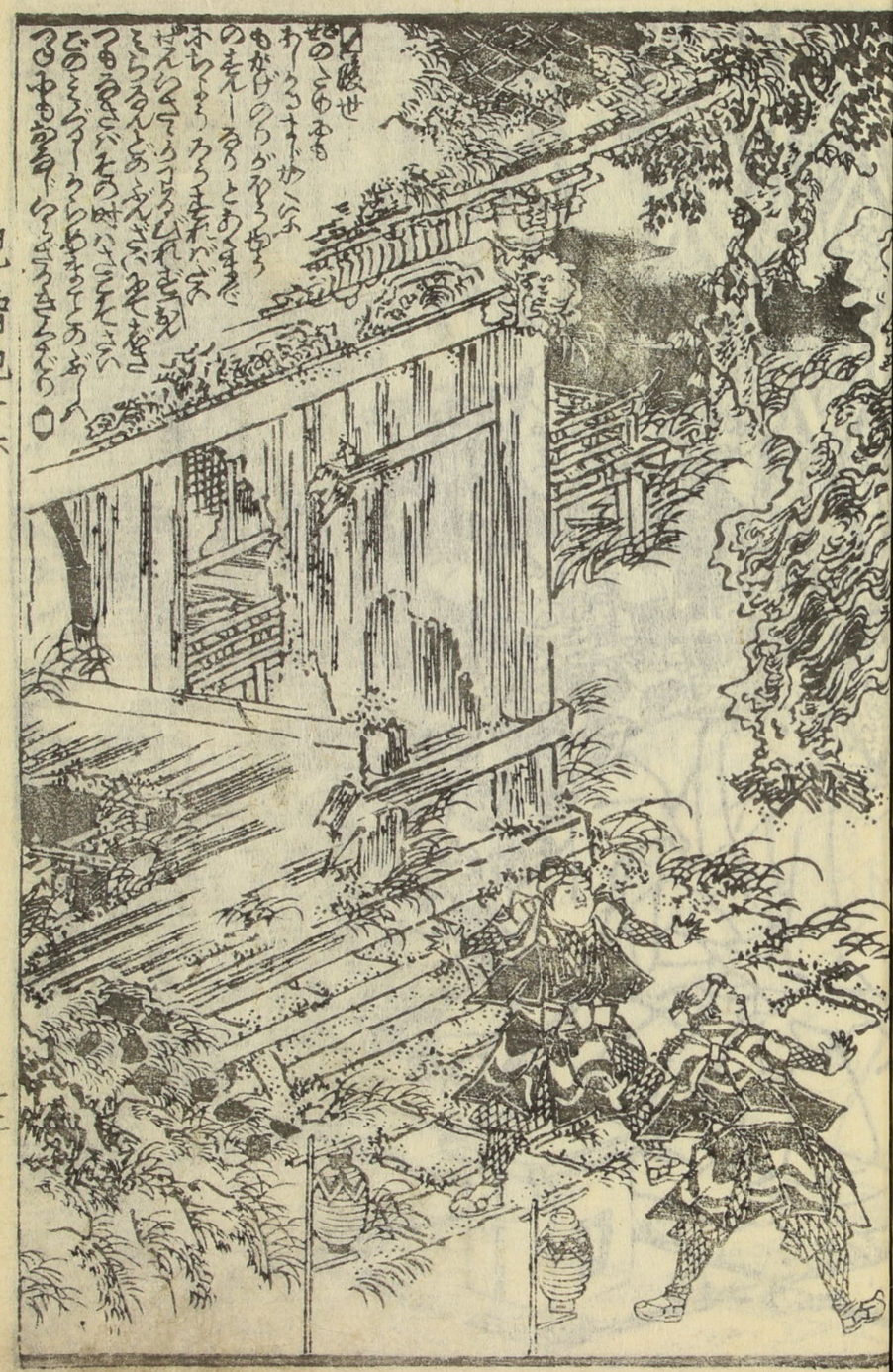
十六編下冊

種員作

國輝画

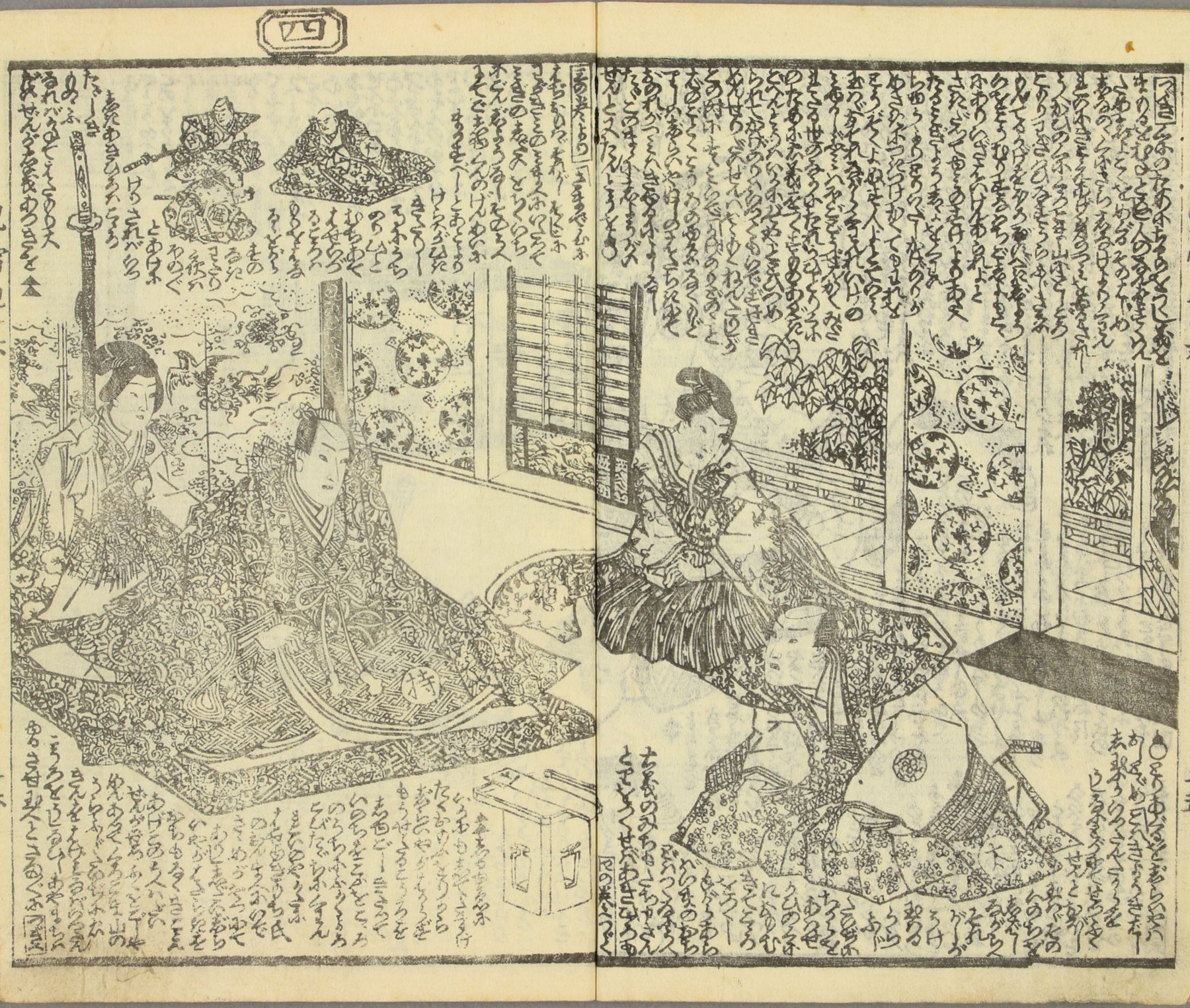
甘泉堂梓

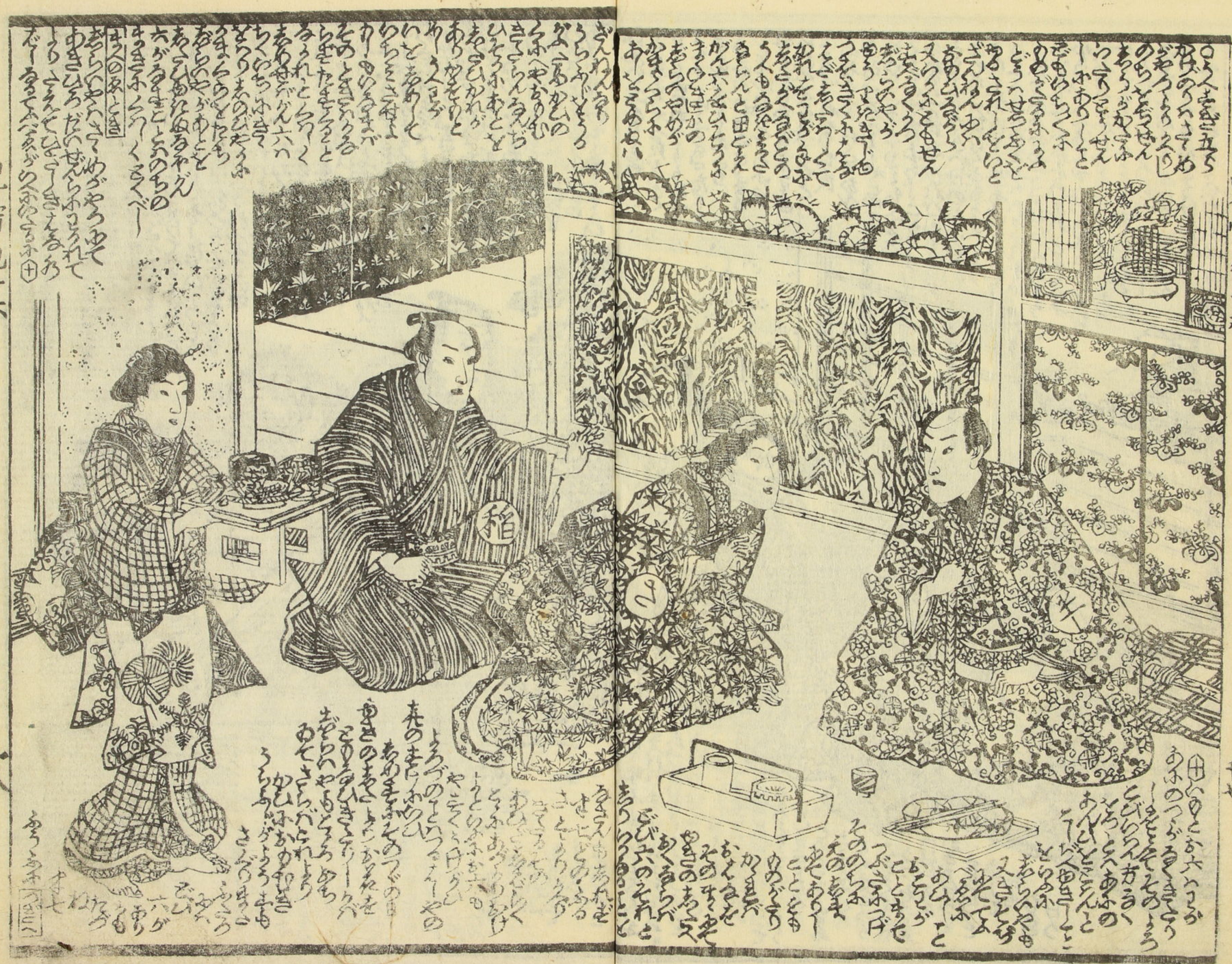




つづき
おさるとうえとまるうしろふ
たちこち田でえぐん六もいまくの
くさるぬえんとまれがたれさえさもふ
さびつくどくこんぐちくもさらく
えるれぎそらふまるうーやい
ちんちんくあもさびまる
くとあけうそどもくふあ
ぬどれがかびのるいふくそろ
らぐちいのそれーぐぶーんは
うえんとまるのくあうとちちらの
かぎろえろーとうそばらぜんの
どくぐどえんのおとあらい
きーとまるのくいろうろう
みつきととれるうあや
まこふんぐくいやとめと
このらぎむぎろぐまらら
たれといまらぎえんの
戸帳のうちかこえ
あうてようー
やはぎ
ぎんふあ
つづき
ゆーぬと
よぎろうこう
めんくいふくふん
まるまうゆも五ち
ぐののいいさそとそ
かーあ戸帳のうち
ふようろうえあうと
ぎりえうりあんぐで
ひうぎーくとけぢわ
んくるけのごのあどもうけ
おるとうもうろう戸帳
ふあぬえうけ昼き
ちぐう
ぐふのあうと
つぐ

五
太
十
畑
惟
清





嘉永六年癸丑孟陬發市標目

兒雷也豪傑譚 廿一篇 柳下亭種員作 廿二篇 廿三篇 一雄齋國輝画

女郎花 一雄齋芳虎画 柳下亭 石燕

今業平昔面影 笠亭仙果作 一猛齋芳虎画 六篇 七篇

祥瑞白菊物語 緑亭川柳作 錦朝楼芳虎画 五篇 六篇

新編金瓶梅全輯 自初編至十編 曲亭馬琴翁作 大尾一陽齋豊國画

書肆 甘泉堂芝神明前 和泉屋市兵衛版

児雷也

家傳

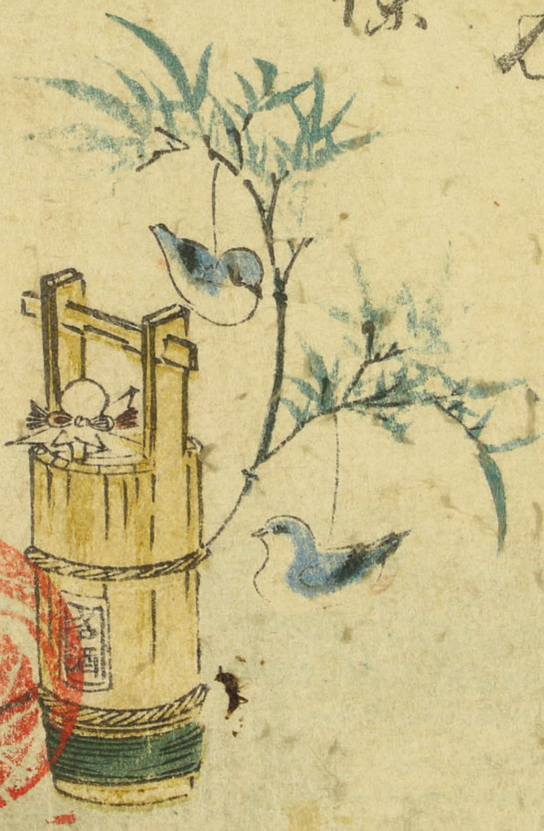
僊

十六編

稚夏花

國輝画

甘泉堂梓



安政四巳歳春